



# いじめを見立てる力を高める校内研修 進行台本

～司会者用資料～

検討項目	活動内容	声かけのポイント
(5) ワークの準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5種類の情報カードについて、参加者の担当者を決める。</li> <li>・ 記録者と協力して、情報カードを分配する。</li> </ul>	《役割担当》 情報1：( ) 情報2：( ) 情報3：( ) 情報4：( ) 情報5：( )
I 情報収集 状況整理 (目安：14分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの初期判断に必要な情報について、意見を出し合う。</li> </ul> <b>①共通情報</b> <b>②個別情報（情報カード太枠内）</b> <b>観点1</b> ：影響を与える「行為」は何か？ <b>観点2</b> ：「行為」に対する本人の反応・様子は？	<b>【発言の促進】</b> <b>①</b> まずは、「共通情報」の中から、この事案が「いじめ」かどうかを判断する際に、必要と思われる情報を出してください。 <b>②</b> 次に、役割ごとの「個別情報」の中から、影響を与える「行為」やそれに対する本人の反応や様子について、情報を出してください。
	<b>【各観点における声かけ】</b>	
	<b>観点1</b> ：児童生徒に影響を与えている「行為」として、周囲の言動や関わり、状況や雰囲気などがあれば報告してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それは誰の行為ですか。</li> <li>・ それは誰に対してですか。</li> <li>・ そのときの本人の様子は。</li> </ul> <b>→観点2へ</b>	<b>観点2</b> ：「行為」等に対して、この児童生徒の被害感の訴えや、心身に苦痛を感じていると捉えられる様子はありますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の表情や反応、気になるところがあれば報告してください。</li> <li>・ それは、どのような行為や状況に対しての様子ですか。→観点1へ</li> </ul>
II 深刻化のリスク <b>資料1</b> (目安：10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 深刻化の三つのキーワードに該当する内容（行動や発言、背景要因）について、意見を出し合う。</li> </ul> <b>①行為の反復性</b> <b>②アンバランスパワー</b> <b>③シンキングエラー</b> ア：被害的立場 イ：加害的立場(加害モデル) ウ：傍観者 エ：教職員	<b>【客観性の確認】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この情報はどのように分かったのですか。</li> <li>・ このことについて、他にも同じような情報をもっている方はいませんか。</li> </ul>
		<b>【発言の促進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主観や想像でもかまいません。</li> <li>・ どこに入るか迷った場合も、意見を共有するために出してみてください。</li> <li>・ 今の意見に関連して、何か意見はありますか？</li> </ul> <b>【次のキーワードへの移行】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とりあえず次に移りますが、また思い浮かんだところで意見を出してください。</li> </ul> ※時間内でも、意見が出なければ次の検討項目に移ってよい。

III 初期判断 <b>資料2</b> (目安：10分)	(i) <b>表面</b> 判断の3観点の有無について、合意形成を行う。 <b>①</b> 本人の被害感(心身の苦痛) <b>②</b> 影響を与える行為 <b>③</b> 客観性 (目安：7分)	<b>【発言の促進】</b> ・(例：①本人の被害感)について、有無の判断に対する意見は何かありますか。 ・意見が出なかった場合 <b>➡</b> (例：①本人の被害感)について、「ある(ない)」と仮定したとき、それに反対する考えはありませんか。 <b>【3観点の有無の不合意】</b> ・ある観点の合意が得られない場合 <b>➡</b> これは初期判断なので、先の状況に応じて判断が変わることもあります。今回は、保留として先に進めていきます。
	(ii) 初期判断をA～Gの中から決める。 (目安：1分)	<b>【判断の合意】</b> ・ここでの判断は(例：A)として、支援の方向性の例を確認しましょう。 <b>【判断の不合意】</b> ・(i 判断の3観点の有無)において、ある観点の合意が得られなかった場合 <b>➡</b> 下の <b>早見表</b> で確認する 例：②行為、③客観性は「有」で合意し、 ①本人の被害感で合意が得られない <b>➡</b> (例：①本人の被害感)について、合意が難しかったので、初期判断は、(例：AとD)の両方を意識しながら、今後の支援の方向性を確認することにしましょう。
	(iii) <b>裏面</b> 支援の方向性の例を確認する。 (目安：2分)	・このグループの判断は(例：A)なので、資料2の裏面の〇〇(例：Aの方向性の例の内容を読む)が支援を考える際のポイントになります。

《初期判断の**早見表**》(○：有，－：無)

3 観 点 の 有 無	① 本人の被害感	○	○	○	－	－	－	－	
	② 行為	○		－	－	○	○	－	－
	③ 客観性	○	－	○	－	○	－	○	－
初期判断 の分類	A	A'	B	C	D	E	F	G	
	いじめ		いじめの疑い	被害的 (迫害的) 不安の増幅	深刻ないじめ の可能性 or いじめへの 発展を危惧	学校・学級風土 に対する危機感	集団における 関係性への不安	高い予防意識 or 不安感の表出	
緊急度	高								低
中心となる 支援の対象	個人								集団

※判断D：①本人が被害感を訴えていないため、現時点での緊急度は中程度だが、経過観察では特に注意が必要。